

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

バイオマス(木屑)への燃料転換を伴う
ボイラー設備更新事業

排出削減事業者名：株式会社サイプレス・スナダヤ

排出削減事業共同実施者名：丸紅株式会社

その他関連事業者名：

目次

1	排出削減事業者の情報	2
2	排出削減活動の概要	2
2.1	排出削減事業の名称	2
2.2	排出削減事業の目的	2
2.3	温室効果ガス排出量の削減方法	2
2.4	国内クレジット認証要件の確認	2
2.5	承認排出削減事業計画からの変更項目	2
3	排出削減活動期間	3
3.1	プロジェクト開始日	3
3.2	モニタリング対象期間	3
4	温室効果ガス排出削減量	3
4.1	採用した排出削減方法論の情報	3
4.2	活動量	3
4.2.1	活動量・原単位	3
4.2.2	活動量の採用根拠	3
4.3	事業の範囲（バウンダリー）	3
5	モニタリング対象指標	4
6	モニタリング体制	5
6.2	モニタリング対象指標の QA/QC	5
7	排出削減量の計算	6
7.1	事業実施後排出量	6
7.2	ベースライン排出量	6
7.3	リーケージ排出量	6
7.4	温室効果ガス排出削減量	6
8	省エネルギー量	6

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	株式会社サイプレス・スナダヤ
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	株式会社サイプレス・スナダヤ
住所	愛媛県西条市小松町新屋敷甲 1171-1
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業 共同実施者名	丸紅株式会社

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

バイオマス(木屑)への燃料転換を伴うボイラー設備更新事業

2.2 排出削減事業の目的

本事業では、製品乾燥用として使用している主力のボイラーを A 重油ボイラーから木屑焚きボイラーに変更する。木屑焚きボイラーの燃料として、集成材（土台・柱）製造工程上発生し、これまで産業廃棄物として処分する代わりに電力会社や農家等へ提供していた木屑を使用することで、A 重油の使用量を減少させ CO2 排出量の削減を図るものである。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

製品乾燥用として使用している A 重油を燃料とする重油焚きボイラーから木屑を燃料とするバイオマスボイラーへ更新し、乾燥機（14 台）に対して空調を行い、A 重油の使用量を削減して CO2 排出量の削減を行うことが出来る。

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

特になし

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

2008年6月10日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2008年6月10日 ～ 2009年12月31日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
004	空調設備の更新

4.2 活動量

4.2.1 活動量・原単位

対象	活動量	原単位
ベースラインエネルギー 使用量	製品生産量	エネルギー使用量
		生産量
電力量(補助電源)	設備稼働時間	設備稼働時間

4.2.2 活動量の採用根拠

事業実施後のバイオマス燃料使用量の計測は困難であり、また、前後設備の構造上の違いから実施後設備では生産に使用する蒸気・熱だけを計測することが不可能なため、方法論 004 にて活動量を採用する。

当該設備は製品を生産する都度、乾燥処理を行うため、エネルギー使用量は、生産量に連動することから、生産量を活動量とする。

事業実施前後の活動量は製品生産量により算出する。

4.3 事業の範囲(バウンダリー)

既存設備(重油ボイラー)は、バイオマスボイラーが灰処理等のメンテナンスの際や非常時の運転停止時にバックアップ用として使用する。

本事業のバウンダリーは、燃料供給設備を含み、製品乾燥用として使用する新設備(バイオマスボイラー)及びバックアップ用の既存設備により空調が行われる乾燥機(14台)を範囲とする。

5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更あ る場合、) 変更理由
$F_{A \text{ 重油, BL}}$	事業実施前燃料使用量 (A 重油)	kℓ	725.45	燃料供給会社からの請求書	
設備稼働時間	事業実施後設備の稼働時間	h	12,697	計測データより算定	
$E L_{Pj}$	事業実施後設備で使用する電力使用量	kWh	690,272.4	計測データより算定、または設備稼働時間 と電力量との積から算出	
$F_{A \text{ 重油, Pj}}$	事業実施後燃料使用量 (A 重油 : バックアップ)	kℓ	59.47	燃料供給会社からの請求書	
$H V_{A \text{ 重油, BL}}$	事業実施前燃料の単位発熱量 (A 重油)	GJ/kℓ	39.1	デフォルト値	
$H V_{A \text{ 重油, Pj}}$	事業実施後燃料の単位発熱量 (A 重油 : バックア ップ)	GJ/kℓ	39.1	デフォルト値	
α_{BL}	事業実施前の活動量 (生産量)	m ³	46,953.1	計測データより算定	
β_{Pj}	事業実施後の活動量 (生産量)	m ³	45,988.5	計測データより算定	
$C F_{A \text{ 重油, BL}}$	事業実施前燃料 (A 重油) の単位発熱量あたりの 炭素排出係数	t-C/GJ	0.01890	デフォルト値	
$C F_{\text{electricity}}$	事業実施後設備で使用する電力の炭素排出係数	t-C/kwh	0.0000915	デフォルト値	

6 モニタリング体制

6.2 モニタリング対象指標の QA/QC

データの種類	QA/QC 手順（該当手順の無い場合、その理由を記載すること）
活動量	
$F_{A \text{ 重油, BL}}$	<ul style="list-style-type: none"> 燃料供給会社からの請求書をもとに算定する。請求書は経理部担当者がファイルし保管・管理する。
設備稼働時間	<ul style="list-style-type: none"> 稼働状況を計測し、算定する。モニタリング結果を書面もしくはエクセルデータ化して担当者が管理・保管する。
$E L_{Pj}$	<ul style="list-style-type: none"> 補助電源の電力量が計測不可能な場合： 各月のモニタリング対象機器の稼働状況を把握し、その稼働時間と電力量との積で使用電力量を算定する。 モニタリング結果を書面もしくはエクセルデータ化して総務部担当者が管理・保管する。
$F_{A \text{ 重油, Pj}}$	<ul style="list-style-type: none"> 燃料供給会社からの請求書をもとに算定する。請求書は経理部担当者がファイルし保管・管理する。
α_{BL}	<ul style="list-style-type: none"> 製品生産量を採用する。モニタリング結果を担当者が書面もしくはエクセルデータ化して担当者が管理・保管する。
β_{Pj}	<ul style="list-style-type: none"> 製品生産量を採用する。モニタリング結果を担当者が書面もしくはエクセルデータ化して担当者が管理・保管する。
単位発熱量	
$HV_{A \text{ 重油, BL}}$	<ul style="list-style-type: none"> 該当文献を確認し、採用している数値から算出する。
$HV_{A \text{ 重油, Pj}}$	<ul style="list-style-type: none"> 該当文献を確認し、採用している数値から算出する。
排出係数	
$CF_{A \text{ 重油, BL}}$	<ul style="list-style-type: none"> 該当文献を確認し、採用している数値から算出する。
$CF_{\text{electricity}}$	<ul style="list-style-type: none"> 該当文献を確認し、採用している数値から算出する。

7 排出削減量の計算

7.1 事業実施後排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
59.47 [kℓ]	39.1 [GJ/kℓ]	0.01890 [tC/GJ]	161
690,272.4 [kwh]	—	0.0000915 [tC/kWh]	231
EMPj			392

7.2 ベースライン排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
725.45 [kℓ]	39.1 [GJ/kℓ]	0.01890 [tC/GJ]	1,925
前 46,953.1 [m3/年]			
後 45,988.5 [m3/年]			
EMBL			1,925

7.3 リークージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
LE			0

7.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	<i>EMBL</i>	1,925
事業実施後排出量 (7.1)	<i>EMPj</i>	392
リークージ排出量 (7.3)	<i>LE</i>	0
温室効果ガス排出削減量	<i>ER</i>	1,533

8 省エネルギー量

原油換算 [kℓ]		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースラインー実績 (①ー②)